

「日本美しいの森お薦め国有林」について

1. 新規予算事業の概要

林野庁では、平成28年3月30日に「明日の日本を支える観光ビジョン構想会議」（議長…内閣総理大臣）により策定された同ビジョンを踏まえ、平成29年度より国有林の「レクリエーションの森」を核とした山村地域における観光地域づくりの取組を推進するための「森林景観を活かした観光資源の創出事業」を開始しています。

今般、有識者の意見を踏まえ、特に優れた自然景観を有するなど、観光資源としての潜在的魅力が認識され、観光施策を推進していく上で地元関係者による実行・受入体制も見込めるレクリエーションの森を「日本美しいの森お薦め国有林」とし、全国で93箇所選定いたしました。これらのレクリエーションの森においては、今後3年間をかけ、修景伐採や施設整備等の環境整備、多言語による標識類の設置やWebサイトの整備などの情報発信を行い、多くの方に日本の美しい

然別自然休養林
(北海道森林管理局管内は全部で20箇所選定)
星降る然別湖

焼走自然観察教育林(岩手県)
(東北森林管理局管内は全部で11箇所選定)
溶岩流と岩手山

野反自然休養林(群馬県)
天空の湖 野反湖

飛竜橋自然観察教育林・千石平風致探勝林(静岡県)
(関東森林管理局管内は全部で15箇所選定)
深山の渓谷美

剣山自然休養林(徳島県)
(四国森林管理局管内は全部で5箇所選定)
霊峰つるぎ

森林景観を味わっていただけるよう、地域の方々の協力のもと、取り組んでいくこととしています。

2. レクリエーションの森の歴史



レクリエーションの森とは、優れた自然景観を有し、森林浴や自然観察、野外スポーツ等に適していることから、国民の皆様に保健休養の場として提供している国有林で、平成28年4月現在、全国で自然休養林や自然観察教育林など、1,000箇所あまりが設定されています。

レクリエーションの森のはじまりは、昭和43年に制定された「自然休養林」制度です。自然休養林制度を定めるにいたった社会経済的な要因としては、昭和40年代の急激な経済成長により、①国民の多くが容易に旅行することができるような経済的余裕が増してきたこと、②週休二日制や家電製品の普及により、余暇時間が増大したこと、③人口過密化により、都市住民の多くが自然の中に休養を求める傾向が一層強まったこと、④交通網の発達及び自家用車の普及により、日帰り旅行が容易にできるようになったこと、⑤農山漁村地域においても、生活様式の変化や機械化導入による省力経営等が進んだことなどから、レジャー指向が多くなったことなどが挙げられます。こうしたことにより、国有林野内に観



花の高原

湯の丸・高峰
自然休養林（長野県）
（中部森林管理局管内は全部で10箇所選定）



天狗岩

近江湖南アルプス
自然休養林（滋賀県）
（近畿中国森林管理局管内は全部で20箇所選定）



菅生の滝

北九州自然休養林
（福岡県）
（九州森林管理局管内は全部で12箇所選定）

光施設及び観光関連施設を設置する要望が多くなったことから、「林業経営との調整を図りつつ、国有林野内における自然の保護及び国民のための秩序ある開発利用を図るため、国有林野内に自然休養林を指定し、国有林野の管理経営の適正を期するとともに、国民の福祉厚生への推進に寄与」するとして、本制度がスタートしました。

3. これからのレクリエーションの森



今回、「日本美しい森お薦め国有林」に選定された箇所以外においても、様々な条件が合致すれば観光振興に寄与する

レクリエーションの森は、まだまだ数多く存在しています。ただし、全国のレクリエーションの森の中には、少子化・高齢化や余暇活動の多様化などの影響もあり、利用が低調となつている箇所が存在することも事実です。このため、林野庁では、今回の事業が開始される以前より、真に、

活発な利用が将来的にも見込まれ、また、地元も観光や地域の活性化等の面からレクリエーションの森の活用を望んでいるところを、集中的・重点的に整備していく方針を固めており、利用が低調なレクリエーションの森の見直し（廃止あるいは統合等）も進めているところです。今後、「日本美しい森お薦め国有林」に選定されたレクリエーションの森を中

心に磨き上げを行い、将来的にはレクリエーションの森全体の質の底上げがなされ、全箇所について自信を持って「お薦め国有林」として紹介できるようにすることを期待して、事業に取り組んでまいります。

4. おわりに



来月号から数回に分けて、この「日本美しい森 お薦め国有林」の一部を本誌でご紹介し、また、今年度開催を予定している「『日本美しい森お薦め国有林』フォトコンテスト」についても、決定次第、詳しくお知らせしたいと思います。